

2015年6月13日 当機構のキックオフシンポジウム

学生からポスドク、教員、一般の方まで幅広く、のべ120人を超すご参加をいただき、非常に盛会でした。ご参加くださった皆様、ありがとうございます。

アンケートでもこれからの機構の活動への期待や貴重なご意見を多数いただき、改めて活動の充実を誓う船出となりました。

日時 2015年6月13日(土) 13:30~16:30
開催場所 医学部教育研究棟 13階 第6セミナー室
司会 加藤淳子(法学政治学研究科)／能智正博(教育学研究科)

機構長の長谷川寿一による[設立趣旨・機構概要の説明](#)に続き、保立和夫先生・宮園浩平先生・小川桂一郎先生・熊野純彦先生からのご祝辞をいただきました。「こころ」の領域について分野横断・統合的な研究がよりいっそう推進されることへの、期待の声をいただきました。続いて当機構に参加する研究者からの研究発表が行われました。

プログラム

開会ご挨拶・機構の概要

機構長 長谷川寿一(総合文化研究科)

ご祝辞

東京大学理事・副学長 保立和夫先生

医学系研究科長 宮園浩平先生

総合文化研究科長 小川桂一郎先生

人文社会系研究科長 熊野純彦先生

閉会ご挨拶

加藤淳子・能智正博

研究者からの発表

岡ノ谷一夫 《総合文化研究科》

前適応説にもとづき言葉の起源を考察する「言葉の発生の3要因」という発表が行われ、言葉が発生するために必要な前適応として、①発声の学習 ②文法の生成 ③意味の文節化の3要素についての研究成果が発表されました。

笠井清登 《医学系研究科》

「総合人間科学としての思春期学」では、精神疾患に関する科学研究の知見と、精神科医としての臨床経験を統合的に述べられました。思春期が、子どもから成人への生物・心理・社会的な移行期であること、またヒトのライフコース全般に影響をおよぼす重要な価値形成期であることが強調されました。

亀田達也 《人文社会系研究科》

「実験社会科学と人文の知のつながりを考える」という発表が行われました。公正に関するマキシン・ルール(ジョン・ロールズ)を実験心理学的に実証しつつ、その脳神経基盤に迫るという内容で、人間の社会認知や行動についての、規範的理論と記述的理論を融合させる試みでした。

金生由紀子 《医学系研究科》

児童精神医学を例にしながら、基礎・臨床をつなぐ人材育成モデル

(<http://plaza.umin.ac.jp/~UTIDAHM/training.html>)についての提案を発表されました。



長谷川寿一(総合文化研究科)



保立和夫先生(東京大学理事・副学長)



宮園浩平先生(医学系研究科長)



小川桂一郎先生(総合文化研究科長)



熊野純彦先生(人文社会系研究科長) 岡ノ谷一夫(総合文化研究科)



笠井清登(医学系研究科)

亀田達也(人文社会系研究科)



金生由紀子(医学系研究科)